

【事業実績】

1. ミュージアムと地域を活性化させるリサーチ・企画

(1) 活性化方針の検討

①ミュージアム魅力発信検討会議の開催(検討会議1)

事業を実施するにあたって、問題点等を整理、意見や情報共有し、後の事業展開に繋げることができた。

2. つながり・ひろがるミュージアムと地域

(1) ミュージアム情報の発信充実

①ミュージアム情報冊子の印刷・配布(情報冊子1)

各ミュージアムとその周辺地域の魅力を広く発信するコンテンツとしての紹介冊子の充実を図ることができた。

(2) 市民参加によるイベント開催

①学芸員等による長期連携講座の開催(イベント1)

実行委員会に関わる多彩な学芸員の研究活動を、各回2本立て、全7回の連続講座を通して広く一般の方に紹介することができた。講座は別ジャンル(前半:自然科学・後半:美術など)の2本で構成したことで、参加者からは「普段聞かないジャンルの組み合わせも、参加してみると新たな興味に繋がった」といったアンケートでの意見をいただいた。

②地域の自然に関わる市民団体の文化祭イベントの開催(イベント2)

「自然史フェスティバル」を開催し、これまでの最高となる130団体、26,000人の参加があり、専門家、市民団体との交流が大いに進んだ。

③大阪文化の担い手育成のための教員研修(イベント3)

「教員のための博物館の日」に大阪歴史博物館が参加し、小中高の教員へ、学習の導きとなる研修を実施することができた。参加者からは「実際に見ることはやはり大切だと思うので、社会見学を増やしてもらえよう学校現場にも声をあげていきたい。」といったアンケートでの意見をいただいた。

3. 国際化拠点としてのミュージアム

(1) ICOM 大会での情報発信・交流(国際発信1~4)

大阪市博物館機構名でICOM大会にブース出展し、多言語のパンフレットも配布しながら参加者へミュージアムの紹介をすることができた。また、考古歴史国際委員会のオフサイトミーティングを大阪歴史博物館で開催し、館の国際的な周知とともに、学芸員の交流が深まった。

4. 誰もが利用しやすいミュージアム

(1) ICTを活用したユニバーサル化

①タブレットを利用した発話コミュニケーション障壁の低減化(ユニバーサル1)

大阪市立自然史博物館において、講演会発表などの発話の自動テキスト化を行った。誤変換もみられるものの、有効性は高く評価され、今後のICTの活用の道筋も得ることができた。

②スマートフォンを利用した展示解説の館外発信・多言語化(ユニバーサル2)

大阪市立科学館では、スマートフォンの専用アプリを用いて、展示解説の館外発信を進め、その理解が進むと好評である。今回は英語・中国語版を作成したが、多言語化への発展性も確認できた。

5. 地域の魅力再発見・再活用・再発信

(1) 地域資料の発掘と活用

①地域に眠る映像資源発掘プロジェクト(地域魅力1)

大阪を中心とする貴重な映像資源の掘り起こしを進め、デジタル化の後、一般公開を行なった。「戦前のお阪や欧州の今は失われた風景」「地下鉄シールド工事」などに深い関心が寄せられた。

【まとめ】

本事業により、地域の資料の掘り起こし、ミュージアムを国内外に発信するコンテンツの充実、ICTツールの新規の取り組みなどは重要な成果である。とりわけICOM京都大会への参画は、各ミュージアムに刺激を与え、地域との関係を深める契機ともなり、今後の展開を考える上で大きな影響を与えた。

